

喜びも リユース

京田辺の団体、まちづくり優秀賞

リユース品を販売するなどしてごみの減量を目指すボランティア団体「京田辺エコパークかなび」が、関西の優れたまちづくりの取り組みを表彰する「ゆめづくりまちづくり賞」の優秀賞に輝いた。

大阪府枚方市と境界付近に

ある京田辺市田辺ボケ谷のごみ処理施設「環境衛生センター・甘南備園」。一角には市民から不用品として寄せられた品物が所狭しと並べられている。本1冊10円、洋服1000円、電子ピアノ2千円……。値段はどれも破格の安さ。バッグを引き渡し、皿を購入していた女性(69)は「あらゆるものが安く手に入るのだからありがたい」と話す。

市の支援を受けながら運営しているのが「京田辺エコパークかなび」だ。35人の会員が交代で品物の引き取りや点検、修理、店番などをこなす。リサイクルの啓発活動や不用品を活用したものの作り教

「不用品」にドラマが

室も行う。

2007年秋の活動開始当初の入場者は月300人前後だったが、口コミで人気が広がり、多い月では1800人超に。また、計測を始めた08年8月から11年度末までは123分を売り上げた。収益は東日本大震災への寄付金や市の太陽光発電設備の一部などにあてられたという。

時には、こんなやりとりも。ある事情で持ち込まれたウェディングドレス。家庭の事情で披露宴ができないカップルの関係者が見つけ、手作りパーティー用に買って行くと、後日、甘南備園にそのドレスを着た新婦の写真が届いたという。

「ごみ減だけでない」

立ち上げから関わる市清掃衛生課の福森恭子さんは「単にごみが減るというだけではなく、モノにまつわるドラマのような出来事に接する機会も多く、人生勉強になる」。メンバーの荒川清さん(73)は「今までなら捨てられていたものがもう一度誰かに喜んでもらえるのがうれしく、やりがいになる」と語る。

課題は「ほとんどが60〜70代」というメンバーの高齢化だ。代表の米田泰子さん(68)は「この活動はすごく大切なこと。だけど、『ごみの仕方なんていやや』という人も増えてくれたら」と話す。開館日は主に平日の午前9時半〜午後3時半。問い合わせは京田辺エコパークかなび(0774・27・5839)へ。(原知恵子)

⑤「京田辺エコパークかなび」のメンバーら。衣料品や家具、食器類が格安で販売されている。いずれも京田辺市田辺ボケ谷

